

## 平成 28 年度 研究成果報告書

### Research Achievement Report FY2016

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ・アメリカ I 講座・教授
氏名 Name	貴志 雅之
専門分野 Academic Field	アメリカ演劇

主たる研究テーマ Principal Research Subject	20-21 世紀アメリカ演劇の政治学研究
<p>本年度は主に以下の 5 つの研究項目に携わった。これらの項目はすべて科研「20-21 世紀アメリカ演劇の政治学研究—1900 年からポスト 9.11」(期間 [変更後]:平成 24-28 年度)の一環としてなされたものである。(1) Eugene O'Neill 作品における「抒情と不寛容」に関する研究の成果を「悲しみと痛み、憐憫のリリシズム—夜への長い旅路の果てに」と題して日本アメリカ文学会関西支部第 60 回支部大会シンポジウム「不寛容な時代の愛—アメリカ文学における抒情の系譜」(2016 年 12 月 3 日, 京都学園大学) で発表。(2) アフリカ系アメリカ演劇研究に関して主にアメリカの研究動向と比較した日本国内の研究の趨勢と方向性を August Wilson 研究を中心に調査研究し、その調査研究成果を書評「アフリカ系アメリカ人の「サイクル」—ヒル地区の地政学 桑原文子『オーガスト・ウィルソン—アメリカの黒人シェイクスピア』白水社、2014. xxvi+490pp.」(2017 年 1 月 20 日発行, 『英文学研究 支部統合号』第 9 巻 [日本英文学会] pp. 213-16.) で発表。(3) ポストコロニアル・アメリカ演劇研究の立場から、アメリカ演劇をコロニアルからポストコロニアルへの通時的流れの中で俯瞰し、Suzan-Lori Parks を焦点化したポストコロニアル・アメリカ演劇の営為と方向性を研究。同研究成果は「解剖と越境—Parks 劇におけるポストコロニアル・スペクタクルとしての身体」と題して日本英文学会第 89 回大会シンポジウム「ポストコロニアリズム以後の演劇」(2017 年 5 月 21 日, 静岡大学) で発表予定。(4) 日本アメリカ文学会第 54 回全国大会シンポジウム「アメリカ文学における幸福の追求とその行方」(2015 年 10 月 11 日, 京都大学) を発展/展開させた編著書『アメリカ文学における幸福の追求とその行方』(執筆者 19 名) の出版企画を推し進め、その成果は金星堂より 2017 年度中に出版予定。(5) 上記科研の本年度研究計画に即して、20 世紀転換期からポスト 9.11 の現代に至るアメリカ演劇の政治学の通時的流れと志向性を総括し、アメリカニズムの支配的政治イデオロギー言説・政策に対抗し、その脱神話化と転覆を図る 20-21 世紀アメリカ演劇の政治学研究内容の総括と再検討・再編を行った。</p>	